

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	人権教育研究室
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 多様な専門分野分野の教員による人権教育研究の充実を図るため、教育学部、国際学部から一人ずつ研究会のメンバーに加える。	→教育学部、国際学部それぞれから研究会への人員2名増員。	C
2. 国際人権に関する研究体制を整備するため、国際社会と人権をテーマとする指定研究を設ける。	→国際社会と人権テーマとした指定研究をひとつ設置。	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

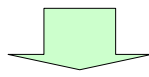
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目4.0.1	(現状説明) 人権教育研究室は大学の機関の一つであるが、構成員並びに活動範囲としては学院全体に及んでおり、現実の活動の範囲が、設置の理念、目的を超えつつあるのが現状である。
☆ 小項目4.0.2	(現状説明) 人権問題講演会や公開研究会については最近の学術の進展や社会の出来事を踏まえたテーマを設定し、柔軟な対応を行っている。年1回授業担当者の担当者会を開催し、それぞれの科目の改善点等を話し合う機会をもっている。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目4.0.1	研究チームに中学部、高等部からも協力研究員に入っただき、一貫した人権教育の情報交換ができる。
★小項目4.0.2	人権教育研究室、研究員、授業担当者についての組織形態と人事について集中して審議する機会を持っている。
その他	



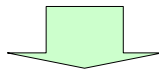
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目4.0.1	初等部や短期大学等の組織との関連付ける工夫を行う。
★小項目4.0.2	年2回、学期ごとの検証を行う。
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目4.0.1	人権教育研究室の位置づけ（法人との関係の明確化）
★小項目4.0.2	人権教育、啓発に関わる学院全体の意見を集約する場や組織がない。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目4.0.1	根本的な人権教育研究室の見直し（新しい人権教育の基本方針制定との関連がある）
★小項目4.0.2	大学だけではなく学院全体で人権教育に関わる部局の人的交流と情報交換ができる場の設置。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価推進委員会からの評価＞（実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室）

- 人権教育研究室の教育研究組織のテーマは、学院、大学のレベルの組織の問題との関連があるようですが、それらについて検討されていることは評価できます。
- 現状説明の小項目4.0.2では、後の「効果が上がっている事項」に述べられているような、「教育研究組織の適切性の検証」についての現状を記述してください。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★なし

Ⅴ. 本項目の評価指標

＜全学的な指標＞

--	--

＜個別的な指標＞

--	--